

造形を通した子育て支援活動Ⅳ

～のびのびワークショップ3年間の記録～（平成27・28・29年度）

Childcare and Family Support Using Art Activity IV

～A detailed record 3 years of NOBI-NOBI workshops～

陣内 敦、澤田 須賀子

I はじめに

長崎短期大学研究紀要第21号（平成21年3月発行）・24号（平成24年3月発行）・27号（平成27年3月発行）において、「造形を通した子育て支援活動Ⅰ」・「造形を通した子育て支援活動Ⅱ」・「造形を通した子育て支援活動Ⅲ」を掲載した。ここに記録してきた「のびのびワークショップ～つくてあそぼう～」は、以後3年、計12年その活動を継続している。本紀要において、以後の平成27・28・29年度の活動内容を記録する。

また、本活動による学修成果を、学生の活動の振り返りレポートと保育実践力の観点からの評価によって表していきたい。

II 行事の内容

1 行事の概要

この開催主旨については前掲のとおり①幼児における造形活動の必要性として幼児の発育を助成すること、②子育て支援の必要性として幼児・児童・保護者間のコミュニケーションの場を提供すること、③学生の学修内容と効用として子どもの活動の自由な展開を知り子育てに関する知識等を得るとしている。

「のびのびワークショップ」は、保育学科保育専攻2年の全員履修科目「保育内容演習Ⅰ（表現造形活動）」が運営するもの【造活ワーク】と、「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」の陣内ゼミによる【ゼミワーク】の二つの活動がある。

2 「のびのびワークショップ」の記録

(1) 「保育内容演習Ⅰ（表現造形活動）」内の「のびのびワークショップ」の記録

（平成27年度の記録）

H 27 造活ワーク-1

■開催日時：5月16日（土）10：00～11：30

■活動場所：長崎短期大学 第一合同講義室および体育館

■活動内容：●風とあそぶおもちゃ



■参加者および参加者数：幼児・児童・保護者34名

■運営グループおよび学生数：2年1組1班23名

H 27 造活ワーク-2

■開催日時：6月20日（土）10：00～11：30

■活動場所：長崎短期大学 第一合同講義室および横通路

■活動内容：●木のおもちゃ



- 参加者および参加者数；幼児・児童・保護者 32名
- 運営グループおよび学生数；2年2組 1班 20名

H 27 造活ワーク - 3

- 開催日時；7月11日（土）10：00～11：30
- 活動場所；長崎短期大学 第一合同講義室および横通路
- 活動内容；●ダンボールの秘密基地



- 参加者および参加者数；幼児・児童・保護者 31名
- 運営グループおよび学生数；2年3組 1班 22名

H 27 造活ワーク - 4

- 開催日時；10月25日（日）10：00～12：00
- 活動場所；長崎短期大学 第一合同講義室および横通路
- 活動内容；●風とあそぶおもちゃ ●木のおもちゃ ●ダンボールの秘密基地
- 参加者および参加者数；幼児・児童・保護者 102名
- 運営グループおよび学生数；2年1組2組3組 各2班 計43名

(平成28年度の記録)

H 28 造活ワーク - 1

- 開催日時；5月14日（土）10：00～11：30
- 活動場所；長崎短期大学 第一合同講義室および体育館
- 活動内容；●風とあそぶおもちゃ
- 参加者および参加者数；幼児・児童・保護者 48名
- 運営グループおよび学生数；2年1組 1班 21名



H 28 造活ワーク - 2

- 開催日時；6月18日（土）10：00～11：30
- 活動場所；長崎短期大学 第一合同講義室および横通路
- 活動内容；●貝や石にお絵かき



- 参加者および参加者数；幼児・児童・保護者 39名
- 運営グループおよび学生数；2年2組 1班 18名

H 28 造活ワーク - 3

- 開催日時；7月9日（土）10：00～11：30
- 活動場所；長崎短期大学 第一合同講義室および横通路
- 活動内容；●粘土で遊ぼう
- 参加者および参加者数；幼児・児童・保護者 42名
- 運営グループおよび学生数；2年3組 1班 15名



H 28 造活ワーク - 4

- 開催日時；10月23日（日）10：00～12：00
- 活動場所・等；長崎短期大学 学園祭 第一合同講義室および横通路
- 活動内容；●風とあそぶおもちゃ●貝や石にお絵かき●粘土で遊ぶ
- 参加者および参加者数；幼児・児童・保護者 113名
- 運営グループおよび学生数；2年1組2組3組各2班 計47名

③平成29年度の記録

H 29 造活ワーク - 1

- 開催日時；5月20日（土）10：00～11：30
- 活動場所；長崎短期大学 第一合同講義室および横通路
- 活動内容；●手作りおもちゃ



- 参加者および参加者数；幼児・児童・保護者 34名
- 運営グループおよび学生数；2年1組 1班17名

H 29 造活ワーク - 2

- 開催日時；6月24日（土）10：00～11：30
- 活動場所；長崎短期大学 第一合同講義室および横通路
- 活動内容；●ダンボールであそぼう



- 参加者および参加者数；幼児・児童・保護者 62名
- 運営グループおよび学生数；2年2組 1班23名

H 29 造活ワーク - 3

- 開催日時；7月22日（土）10：00～11：30
- 活動場所；長崎短期大学 第一合同講義室および横通路
- 活動内容；●流木アート



- 参加者および参加者数；幼児・児童・保護者 56名
- 運営グループおよび学生数；2年3組 1班19名

H 29 造活ワーク - 4

- 開催日時；10月29日（日）10：00～11：30
- 活動場所；長崎短期大学 第一合同講義室および横通路
- 活動内容；●手作りおもちゃ●ダンボールであそ

ぼう ● 流木アート

■参加者および参加者数；幼児・児童・保護者
121名

■運営グループおよび学生数；2年1組2組3組
各2班 計45名

(2)「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」ゼミナールの〔のびのびワークショップ〕の記録
(平成27年度の記録)

H27ゼミワーク-1

■開催日時；5月6日（祝水）11：00～15：00

■活動概要・場所・等；第19回親子で遊ぼう！「させぼわんぱくひろば」佐世保市体育文化館

■活動内容；

保育教材1「風とあそぼう こいのぼり」

- 1) こいのぼりの目にマジックで自由に目を描く
- 2) 両面テープをはがし、こいのぼりの顔に貼る
- 3) こいのぼりの体にマジックで自由に模様を描く
- 4) 穴に紐を通してストローに結びつけ、とれないようにセロハンテープでとめる
- 5) 公園で遊ぶ



■参加者および参加者数；幼児・児童・保護者
210名

■運営グループおよび学生数；陣内ゼミ学生 8名

H27ゼミワーク-2

■開催日時；12月日（土）12：30～15：45

■活動概要・場所・等；佐世保市立相浦児童センター
「あいのうらこどもまつり」ウォークラリー&つくってあそぼう

■活動内容；

- 1) おもちゃのチャチャチャ



- 2) タイムトラベラー



- 3) こまままわしこままわし



- 4) 笹舟
- 5) 水切り

6) 凧作り



- 参加者および参加者数；幼児・児童 43名
- 運営グループおよび学生数；陣内ゼミ学生 8名

（平成28年度の記録）

H28ゼミワークー1

- 開催日時；5月5日（祝木）11：00～15：00
- 活動概要・場所・等；第20回親子で遊ぼう！「させぼわんぱくひろば」佐世保市体育文化館
- 活動内容；

保育教材1「風とあそぼう 紙飛行機」

- 1) 試作品を見て“よく飛ぶ紙飛行機”と“鳥飛行機”のどちらを作るか決める
- 2) 色コピー用紙に油性マーカーで絵や模様を描いて飛行機を折る
- 3) 色コピー用紙で紙飛行機を折ってから油性マーカーで絵や模様を描く
- 4) 公園で飛ばして遊ぶ



- 参加者および参加者数；幼児・児童・保護者 230名
- 運営グループおよび学生数；陣内ゼミ学生 10名

H28ゼミワークー2

- 開催日時；12月17日（土）12：30～15：45
 - 活動概要・場所・等；佐世保市立相浦児童センター「あいのうらこどもまつり」ウォークラリー&つくってあそぼう
 - 活動内容；
- 1) 水切り



2) 笹舟



3) ダルマおとし



4) モンモンまとあてるもん



5) なんちゃってドラム



6) てんぐはねつき



7) リースづくり



■参加者および参加者数；幼児・児童 55名

■運営グループおよび学生数；陣内ゼミ学生 10名

(平成29年度の記録)

H29ゼミワーク-1

■開催日時；5月7日(日) 11:00～15:00

■活動概要・場所・等；第21回親子で遊ぼう！「させほわんぱくひろば」佐世保市体育文化館

■活動内容；

保育教材「風とあそぼう 紙とんぼ」

- 1) 画用紙に絵を描く
- 2) ストローに切り込みを入れる
- 3) 画用紙を曲げて羽を作る
- 4) ストローの切り込みに画用紙をさしてテープでとめる
- 5) 公園で飛ばす



■参加者および参加者数；幼児・児童・保護者 250名

■運営グループおよび学生数；陣内ゼミ学生 12名

H29ゼミワーク-2

■開催日時；12月16日(土) 12:30～15:45

■活動概要・場所・等；佐世保市立相浦児童センター
「あいのうらこどもまつり」ウォークラリー&つ
くってあそぼう

■活動内容；

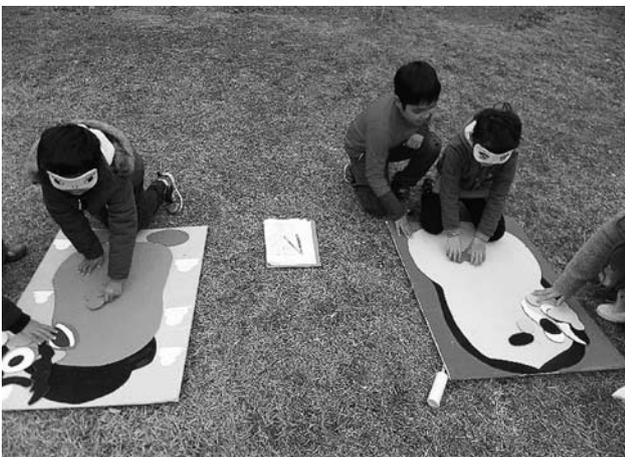
- 1) 水切り
- 2) 笹舟
- 3) ストローふきや



4) 積み木パズル



5) 福笑い



6) お城輪投げ



7) まんげきょう作り



■参加者および参加者数；幼児・児童 54名

■運営グループおよび学生数；陣内ゼミ学生 12名

Ⅲ 本活動の学修成果

1 「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」ゼミナールの学生の振り返り

平成29年度卒業研究論集の中で、陣内ゼミの学生たちは、活動の振り返りを次のように綴っている。「現代の子どもたちは、外で友人や家族と遊ぶ機会が減少しており、自然や地域の行事に参加する機会がなくなってきている。こうした中、私たちは「わんぱく広場」や「あいのうらこどもまつり～ウォークラリー&つくってあそぼう～」への参加の機会を与えられた。この活動を通して感じたことは、自分たちが住む地域の自然や文化について子どもたちは新しい発見や興味を示していた。私たち大人が、子どもたちが地域の自然の恵みに触れ合えるような機会をつくること、伝えることが大切だと感じた。子どもたちは自然を知ることだけにとどまらず、子どもたち同士の間関係を深めるとともに、相手への思

いやりの気持ちを持てるような活動になっていた。

私たちは子どもが様々な世代の人と温かく触れ合える社会、安全な社会を作れるように地域に根ざす子育て支援活動を続けていく必要があると感じた。」

この中で、学生達は地域とのつながりを知り、その重要性と自らの使命を感じている。

2 「保育内容演習Ⅰ（表現造形活動）」内の学生の活動の振り返りレポート

レポート提出者：93名

設問項目

のびのびワークショップ～つくってあそぼう～の活動に参加して、感じたこと考えたことを次の項目の内容に沿ってそれぞれ100～140字で書いてください。

- ①子ども達の造形活動に寄り添って
- ②保護者の方と語らって
- ③このような子育て支援活動について

学生は子どもや保護者に対する様々な気づきをもとに援助法に結び付けている。学生の記述にある“気づき”をいくつかのコンテンツにまとめ、順に考察をおこなった。

①「子ども達の造形活動に寄り添って」についての記述

【子どもの個性】（回答数6）

学生が担当する子どもの数は、1名～4名程度であるが、“子どもの個性”について触れている。兄弟姉妹の中での個性、性別による個性、気質による個性、いずれも温かい視線で受け入れ観察している様子があった。

【子どものコミュニケーション力】（回答数16）

学生それぞれのコミュニケーションの受容の違いがあった上で、子どもが自分に慣れてくれたことへの喜びが語られていたり、子ども同士の関わり方や子どもからの意思表示についての気づきがあった。

【子どもの技能の発達】（回答数24）

参加している子どもの年齢に幅があり、2歳に満たない幼児から小学校高学年までを対応している。学生は年齢による技能の発達段階を実感し、最小限の援助の中で子どもの自発をうながそうとするなど、貴重な体験を得ている。

【子どもの意欲・好奇心】（回答数24）

子どもの意欲や好奇心がどのような場面で膨らんで

いくのか、援助をする中で確認して行く様子がある。また、子ども達が積極的になったときの表情や発言、行動内容もしっかり捉えられていた。

【子どもの喜び】（回答数30）

子どもが造形活動をおこなって得られた喜びの内容やその表現方法を伝えている。このことがまさしく造形活動の目的であると共に、学生あるいは保育者自身の喜びであるというふうに歓喜の記述があった。

【子どもの発想力・想像力】（回答数51）

最も多かった発想力と想像力は、造形活動の目的である。これについて気づくことができた学生は、造形活動の意義を実感できたと言える。子ども達の発想力と想像力は、学生が予想していたものよりはるかに広がりのあるものであって、子ども達の可能性を信じて保育する者にとって重要な発見であった。

②「保護者の方と語らって」についての記述

【保護者と学生の会話や関わりの少なさ】（回答数21）

【保護者と関わることへの緊張感】（回答数3）

【保護者との話題の難しさ】（回答数5）

【保護者からの話題の提供】（回答数9）

活動の最初の時点では、ほとんどの学生が保護者との関係づくりについて不安を感じているようである。このうち23パーセントの学生は、保護者との会話や関わりが少なかったと反省している。その理由として、緊張感や話題づくりの難しさを挙げている。その一方で、関わりができた中には保護者から話題の提供による場合もあったようである。また、学生へ子どもとの関わりかたへのアドバイスをいただき感謝している記述が2件あった。

【保護者と学生の信頼関係】（回答数11）

【保護者との会話の重要性】（回答数21）

学生が保護者との関係づくりについて成果が感じられたのは、安心して子どもを任せられている、または感謝されたなどの信頼関係が得られた場面によっている。このことで学生は会話や関係づくりの重要性を意識している。また、会話ができなかった学生にとっても同じく重要性が意識されている。

【子どもの日常の様子】（回答数21）

会話の内容としては、まず子どもの日常の様子について保護者が語るケースが多く見られる。これは学生が求める話題でもあり、造形活動の支援を行う際の手掛かりや言葉かけのきっかけにもなったと記述している。さらに、子育てをする保護者の状況や心

境を話される場合もあったようである。

【子どもの見守りの様子】（回答数24）

【子どもと保護者の会話や関わり】（回答数22）

保護者が子どもの活動を温かく見守り、子どもへの愛情表現とともに言葉かけを行う様子が記述されている。また、一緒に造形活動を楽しみ触れ合う様子も多く見られている。

【自分の子どもの再認識】（回答数12）

保護者は、家庭での様子と比べて、子どもの自主性や創造性について様々な気づきを得ており、子どもの個性や発達を再認識している。

【保護者自身の造形活動への関心・積極性】（回答数7）

保護者自身も本行事の造形活動に関心を示し、子どもと並んで作品作りに積極的になっている姿も多く見受けられた。

【保護者同士の対話】（回答数4）

誘い合わせて参加されているケースもあって、保護者同士の対話の場となっている。また、その他にもこの場が保護者同士を繋げている場面もあると考えられる。

【本行事の重要性】（回答数19）

学生自身の活動参加への満足感とともに、保護者からの喜びや感謝の声、活動の目的や内容を知って本行事の重要性を認識したとの記述が多く見られた。

③このような子育て支援活動についての記述

【造形活動の重要性】（回答数7）

【子どもにとって重要性】（回答数52）

記述をまとめると、ゆったりした時間の中で自宅ではできない様々な造形体験を行うことは、子どもの感性と想像性を豊かにし、自分で考える力や創造性を育むことに繋がっている。また、子どもにとって、保護者に見守られながらのびのびと遊ぶことは、楽しい経験であり、たくさんの人とのふれあい、初めての子ども同士で協調しながら友達を作る出会いの場にもなっている。

【保護者にとっての重要性】（回答数49）

現在の子育て環境は地域の方との交流が希薄になりつつあるが、参加した保護者にとっては、育児不安などの悩みを打ち明け、息抜きができる語らいの場となっている。保護者間の友だちづくりを広げる中で、様々な意見交換や子育ての楽しさが共有され、養育力の向上に繋がっている。また、ゆっくりふれあうことのできる親子の時間の提供、自分の子ども

を少し離れた位置から見てみることで子どもの新たな才能や個性などを再発見することもできている。保護者自身の造形への関心や子どもとの遊び方の開発にも役立っている。

【地域が子育てを支えることについての重要性】（回答数8）

地域と園や学校との繋がりを認識できるであり、様々な立場で子育てを語り合える場となっていると記述している。

【学生と子どもとの関わり的重要性】（回答数36）

学生が子どもとほぼ一対一でふれあうことによる理解と支援方法の取得は広範囲かつ深いものとなっている。子どもの技能の発達の様子や各場面での子どもの心の動き、子どもの視点や個性の理解、声掛けの方法や年齢に応じた支援方法などを獲得している。また、小学生の様子、親子の関わりの様子を知ることにもできている。子どもとのふれあいの喜びを感じながら、実習や就業時に役に立つ保育実践力とコミュニケーション力を高めていることが分かった。

【学生の保護者との対応力】（回答数5）

学生にとって最もハードルが高かった保護者との対応力についても、接遇マナーを意識しながらも次第に自然な会話ができるようになり、自身が保育職に就いた時に保護者が知りたい内容や保護者に伝えなければならない内容のイメージをつかめた者もあった。また、保護者と一緒に子どもを支援する一体感を得る経験を得ることで、保護者支援の重要性も認識できている。

3 保育実践力の観点からの評価

本研究における保育実践力とは、造形活動を通して、子どもの発達段階に即した援助ができたか、状況に応じた対応ができたか等の力として捉えている。また、これについて学生達が活動を振り返り、自己課題につなげるための主体的な学びができたかについての評価を考えていきたい。

「のびのびワークショップ」は年間4回開催しており、その開催時期と幼稚園教育実習・保育所実習の時期を比較しながら学生の実践力について考察する。

第1回目は、幼稚園教育実習前の5月に開催した。学生は準備段階から緊張しており、当日の受付では参加者の名前確認に時間がかかっていた。受付から会場までの案内担当学生は、参加親子に対して言葉

を交わさず、親の存在を気にしながらも無言で誘導する学生も少なくなかった。ワークショップ中は、子どもの要望に応えることで精一杯になり、子どもの発達段階を考慮した支援や可能性を引き出すことまで意識が向いていなかったようである。しかし、子どもが興味を示していることに対して、希望に応えたい、この時間を楽しんでほしいという思いは強く、子どもに寄り添う気持ちは伝わってきた。

第2回、第3回は幼稚園教育実習を終えた6月、7月の開催であった。学生は実習先で保育者の姿から多くのことを学び、子どもに対する関わり、保護者への声掛けなどを観察・実践してきた。その経験が自信につながっており、受付や会場案内でも自ら声を掛ける姿を見ることができた。名前シールを子どもの胸付近に貼る際にも、いきなり貼るのではなく、目線を合わせ、驚かせないように声をかけながら行動する等、親子へ配慮する姿も見られた。保護者への関わりはまだごちなさがあるものの、活動中の子どもへの対応は、一緒にする・難しい部分だけ手伝う・表現方法を伝え子どもの力でやり遂げられる環境を作る等、子ども達の発達段階、可能性、個性を大切にされた支援ができていた。保護者はその様子を微笑ましく見守られており、学生へ感謝の気持ちを伝えていただいている姿も印象的であった。

第4回のワークショップは幼稚園教育実習・保育所実習等、全ての実習が終わった10月に開催した。この回は学園祭と同時開催で参加人数が多かったが、学生は、自分の持ち場以外にも人手が足りない場所へ移動し、初めて参加する親子へワークショップの説明や造形活動を一緒に行っていた。会話に夢中になっている親同士の横で、まだ幼い子ども達を自分の膝の上であやしたり、段ボール列車で会場内を走っている子ども達のそれぞれのつながりを深めようとする保育の様子は、頼もしさを感じるものであった。課題だった保護者とのコミュニケーションに関しても、子どもの姿を通して話のきっかけを作ることができ、保護者との会話を楽しむ学生も多かった。

実習前と実習後とでは、子どもに対する気持ちの変化、子どもの内面を見ようとする力が身に付きつつあり、また自分が受け入れられたという喜びから、より子どもを理解しようとする気持ちが表れていた。ワークショップの中で、子どもたちの思いを受

け止め、自分の力で乗り越えなければいけない問題が生じたこともあった。どうすれば良いかと考える力、解決しようとする力、そして、解決できた時の充実感、達成感を体験することができた。保護者とも関わる不安もあったが、この活動は保護者視点で学びを深める「保育相談支援」、そして、自己課題を解決するための「保育実践演習」との科目間連携や学びの連続性に繋がっていると考える。保育を学ぶ学生にとって、保護者や子ども達と関わる機会はとても貴重であり、この「のびのびワークショップ」は、学生の保育実践力の向上のためにとても必要な活動であると考えられる。

IV おわりに

「のびのびワークショップ」の活動の目的の一つに、保育専攻の学生達への学びの場を提供することがあった。学生たちの振り返りには、自らの保育の課題を指標とした反省や問題点あるいは展望が生まれていた。この活動は造形を介在させているものの、造形以外の保育全般に通じる様々な保育スキルや保育観を認識できるものとなっていた。これは、学生達が造形活動は単に子ども達の造形技能の向上のためにあるものではなく、子ども達の育ち全般に関わるものであるという捉え方をし「のびのびワークショップ」の活動に臨んでいるからである。本研究をおこなう筆者も、この活動の目的を保育実践力の育成として捉え、Ⅲ章にこの観点における評価をまとめることができた。

この活動の目的には、さらに“子育て支援”と“地域連携”がある。これらについても学生の振り返りの中に強く意識されていた。

本活動は、12年を経過し、地域の活動として定着している。複数の目的を掲げた「のびのびワークショップ」は、様々な保育の問題を考える場として存在している。今後も、この活動を続けながら、保育の向上について検討していきたいと考える。

【引用文献】

平成29年度卒業研究論集（第29集） 2018年2月
長崎短期大学保育学科

長崎短期大学研究倫理委員会承認【第1809号】